

郷土かみのかわの歴史・文化財

町指定文化財 多功廃寺址と礎石

石橋駅東口一帯の台地上は、現在住宅が立ち並んでいますが、奈良時代を中心とした時代、多功天満宮周辺に河内郡役所に関係すると思われる施設が立ち並んでいたことが、近年の調査研究でわかっていきます。その建物に使われていた礎石が、多功天満宮の境内に残されています。

この遺跡が世に知られることになったのは、昭和11年に発表された論文です。この中で礎石が発見されていることや、瓦が出土していることなどから、奈良時代を中心とした時代のお寺の跡であると指摘され、それ以降「多功廃寺」との名称で呼ばれることとなりました。後の研究では寺院説に対して疑問が出たものの、それを裏付ける根拠も無かつたことから、昭和47年に町指定文化財に指定された際にも、引き続き「多功廃寺」の名称が使われることとなりました。

昭和61年以降、多功天満宮周辺で区画整理事業がすすめられると、本格的に発掘調査が開始され、多くの住居跡・建物跡・溝が確認され、徐々に遺跡の性格が解明されました。確認された建物は、総柱建物や掘込地業建物で、南北方向に並び整然とした配置です。また、瓦が多く出土していることから、瓦葺建物も間違いなく存在することがわかっています。これに加え日常生活に必要な土器類が少ないこと、大量の焼けて炭になったお米が出土していることから考えると、河内郡役所に関係する施設である可能性が極めて高くなったのです。

ご存知の方も多いと思いますが、上三川町内には河内郡役所跡と考えられる国指定史跡上神主・茂原官衙遺跡があります。実はこの遺跡は、多功廃寺址とは3.5kmしか離れておらず、この二つの遺跡がどのような関係にあったか、注目される点が多いのです。多功廃寺址の東側には、まだ調査が行われていない場所が広がっており、将来この場所を調査して、新たな成果が見され、遺跡の性格が解明されるに至れば、上三川の古代史が塗り替えられるに違いありません。

天満宮の境内には、奈良時代の礎石が残っています。

天満宮の境内には、奈良時代の礎石が残っています。



天満宮の境内には、奈良時代の礎石が残っています。

※町巡回バス最寄りバス停: 明治南路線(みどりのバス)・間の田

奈良時代			飛鳥・藤原時代														時代		
718	715	710	709	708	707	705	703	702	7世紀後半	694	690	689	687	672	670	669	663	646	西暦
養老2	霊亀元	和銅3	和銅2	和銅元	慶雲4	慶雲2	大宝3	大宝2											元号
養老律令が制定される。	下野国など六力国から富民1000戸が陸奥に移される。	平京城に遷都。	下野古麻呂が死去。	下野古麻呂、式部卿となる。	下野古麻呂、文武天皇の山陵司になる。	下野古麻呂、兵部卿となる。	下野古麻呂、律令編纂の功により功田20町が与えられる。	大宝律令が作られる。	このころ多功廃寺址(多功遺跡)が造営され始める。	藤原京遷都。	庚寅年籍が作られる。	浄御原令が制定される。	新羅人14人を下野に移住させる。	壬申の乱が起きる。	全国規模で作られた初めての戸籍、庚午年籍が作られる。	遣唐使を派遣。	白村江の戦い。	改新の詔が発せられる。	できごと